

① 総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合を、男性、女性、男女合計それぞれ記事の中から抜き出しましょう。

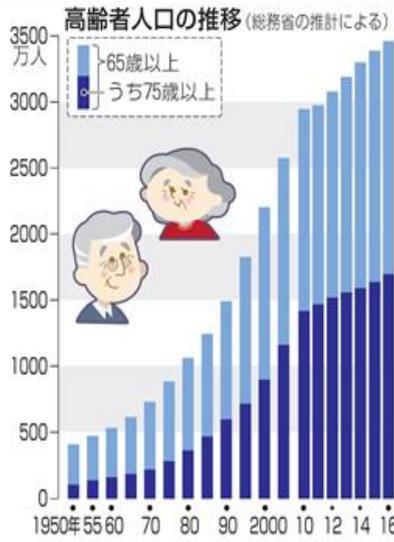
男性
(24・3 %)

女性
(30・1 %)

男女合計
(27・3 %)

② 日本の高齢者の割合を欧米主要 6 カ国と比較した際、記事から分かることを簡潔にまとめましょう。

最も高い。1995年以降の伸び幅も大きく他を引き離しており、日本の高齢化が急速に進んでいる。



女性の総人口に占める65歳以上の割合は2001年に20%を超え、09年に25%を超えた。

65歳以上の高齢者

女性3割超える

人口が過去最多

敬老の日を前に総務省が18日発表した人口推計によると、女性の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が9月15日時点で30・1%となり、初めて3割を超えた。男性は24・3%。男女を合わせると前年から0・6割増の27・3%だった。65歳以上人口は73万人増の3461万人で、割合、人数とも過去最高を更新した。

今年の65歳以上人口は、女性が前年より38万人増えて1962万人、男性は35万人増の1499万人だった。後期高齢者医療制度の対象となる75歳以上は1697万人で総人口の13・4%。女性が1037万人、男性は660万人だった。

推計は、15年国勢調査の

100歳以上850人 女性87%占める 県内

大分県高齢者福祉課によると、県内の100歳以上の高齢者は850人(15日現在)。男性は108人、女性は742人で、女性が87%を占めた。人数は昨年より122人増加。2007年(368人)に比べると2・3倍となった。最高齢は、佐伯市の大矢亀雄さん(99)。市町村別では、大分市が236人で最も多く、別府市73人、佐伯市68人、宇佐市55人と続く。本年度中に100歳となる人の数は男性60人、女性361人の計421人(1日現在)。昨年よりも25人増えた。

人口速報集計を基に、その後の出生・死亡者数から算出した。日本の高齢者の割合は欧米主要6カ国との比較でも最も高く、22・7%のイタリア、21・4%のドイツを上回った。1995年以降の伸び幅も日本は12・7%に達した。イタリアの6・2%、ドイツの6・0%を大きく引き離しており、日本の高齢化が急速に進んでいることを改めて示した。また労働力調査による

と、15年に職に就いていた高齢者は730万人と12年連続で増え、過去最多を更新した。約半数の360万人が企業などに雇用されていて、このうち74・2%に当たる267万人がアルバイトやパートといった非正規雇用だった。就業率は21・7%で、米国18・2%、カナダ12・8%を上回るなど、欧米6カ国より高かった。男女別では男性が30・3%、女性が15・0%だった。

③ 高齢者の割合が増え続けたとき、社会にはどんな影響があるでしょうか。自由に考えてみましょう。

(2016年9月19日付朝刊社会面)

多岐にわたるため省略します。